

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	日本植物生理学会2016（平成28年）第57回大会 http://jspp.org/annualmeeting/57/
演題名	イネのストレス誘導的なジャスモン酸生産への活性カルボニルの関与
発表者	○宮本皓司、※石田翼、※田代裕也、※鶴見明彦、※見目凌、酒澤智子、湯本絵美、柴田恭美、朝比奈雅志、 <u>横田孝雄</u> 、飯野盛利、岡田憲典、 <u>山根久和</u> (植物化学研究室)
内容	ジャスモン酸(JA)は、傷害や病原菌感染などの様々なストレスによって早期に誘導され、それらのストレスに対する防御応答において重要な機能を果たしている。一方、様々な環境ストレスに応答して活性酸素種が生成することが知られている。生成した活性酸素種は多価不飽和脂肪酸の非酵素的な酸化分解を引き起こし、活性カルボニルと称される反応性の高いカルボニル化合物が生成する。本研究では、JA合成誘導機構の解明の一環として活性カルボニルに注目して研究を行った。その結果、イネの葉に対して活性カルボニルを暴露することでJAの生合成が誘導されることを示した。なお、本研究はバイオサイエンス学科の卒研生の卒業論文研究として行われたものである。また、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」による支援を受けて行った。
関連画像	 <p>ポスター発表を行う宮本博士研究員</p>